私たちが崇めているお方

詩編１９：１～６

20017/4/9

私たちは自分が崇めているお方を知っているでしょうか。私たちが礼拝しているお方は、すべての面において無限ですから、小さな私たちの知的能力をはるかに超えたお方です。知ることなど不可能なのです。とはいえ私たちは、私たちの神を知ることができます。そして知らなければなりません。私たちの知識は主に三つの源によります。

Ⅰ．　本能的に知る　　私たちは唯一、神を感じ、神を知ることができる動物です。神に似せて造られたからです。神は霊ですから、私たち人間も肉体を持ちながら、霊的な存在として造られ、霊である神を感じ、知ることができるようにされているのです。

あらゆる動物の中で、神を礼拝する本能を持っているのは人間だけです。人間が人間である証明は、言葉を使うことでも、火を使うことでも、道具を使うことでも、二本足で立つことでもありません。神を礼拝することです。唯物論的な進化論では、人間は進化の頂点に立つものです。ところがこの頂点の人間が、唯物論の理論に反して霊的な感覚を持ち、目にも見えず、科学の実験対象にもできない神を礼拝するのです。

人間が神を知るのは、まさに人間が創造された時に刷り込まれた、今流にいえばプログラムされた能力で、本能と言う以外にはありません。また神は、今も自然と呼ばれる被造物を通して、ご自分を私たちに現しておられます。詩編の作者のように、大空を仰ぐと神を感じる人もいれば、多くの日本人のように、深山に入り大木を見たり滝を眺めたりすると、霊的感動に打たれる人たちもいます。

私たちの神は、自然の中におられ、自然をご自分の中に収め、自然を通して私たちにお語りになるお方です。（ロマ 1：19：20、エペソ 4：6、使徒 17：28）　私たちは自然を通して、きわめて基本的な神の性質、その永遠の栄光を知ることができるのです。イエス様も野の花や空の鳥を示して、神を知るように教えておられます。（マタ 6:26～34）

Ⅱ．　聖書によって知る　　人間は自然を通してだけではなく、聖書という神が与えてくださった書物を通して、神を知ることができます。聖書は神の自己顕示の書であり、神の救いの計画と執行を記した書です。神を知的に知るのは、この聖書によるところがほとんどです。

人間が本能によって神を知るのは極めて基本的な事柄に限られるため、聖書を持たない民族の神知識はとても少なく、間違いも多いのです。ただ、日本人は多くの民族の中で、人間としての本能を良く保ち、驚くほど良い神感覚を持ち続けていると言えます。その上に聖書で神を理解できたなら、かなり確実な神知識を持てるのです。

聖書によって私たちは万物の創造者である神を理解し、人間の罪を理解し、神の愛と聖さを理解し、神の救いの計画と、イスラエルの選びと、キリストの到来とその十字架の死を知り、与えられる永遠の命を

知ることができ、自分たちと世界の将来についても、かなり細かく知ることができます。

大切なのはこの聖書を読むことです。そして正しく理解することです。西欧から伝えられたキリスト教神学には、聖書から外れている部分、あるいは聖書を誤って解釈している点がたくさんあります。それを正して行くのも、わたしたち日本人の役割かも知れません。そうしなければキリスト教は、西欧の白人たちの、自分勝手で醜悪な宗教に終わってしまいます。

III.　体験によって知る　神を知るもう一つの大切な方法は、体験です。神を体験することです。それは聖書に示されている、天地の創造者である神を頼って生きることによって、積み重ねられます。神に信頼して暮らし、毎日、神とお付き合いを絶やさないことです。

具体的に言うと、聖書に教えられている教えを、「難しい」とか「不可能だ」とか言わずに、祈りながら、神の助けに期待しながら実行してみることです。そうすると神の助け、神の力、神の励ましをたくさん体験できるようになるのです。つまり、神に頼って生きると、神がその信頼にお応え下さるために、体験として、神を知ることができるのです。体験による知識が、本能的な知識と聖書の教えによる知識の上に重ねられると、非常に強固な揺るがない知識となります。

強いクリスチャンとは、このような体験による知識を、たとえ、ひとつひとつの体験は小さくても、それを毎日たゆみなく積み重ねていく人です。それはちょうど、良い親子関係に譬えることもできるでしょう。子が親にあまえるように、神様に甘えて生きることです。

私たちは自分が崇め礼拝しているお方を、しっかりと知る知識を身につけましょう。